

Eating Disorders Awareness Week in UK

イギリス

2017.2.27~3.3

松原里奈 (2年)

渡航先での活動内容

2/27~3/5は摂食障害啓発週間で、イギリス各地でイベントが行われており、それらに参加しました。



リバプールで摂食障害についてのカンパレンスに参加



リーズで摂食障害とボディイメージについてのワークショップに参加



ロンドンでボディイメージの提示のされ方を調査



ボーンマスで摂食障害の薬物療法、学校での早期介入についての講義を聴講



目的を達成できたか

自分の見た目を嫌う人が多く、痩せているのがよいとされる文化をどう変えようとしているのか、摂食障害の正しい知識をどう広めているのかについて知ることを目的とした。

前者については、今回参加したワークショップのように、自分の見た目の捉え方について考え直すものを無料で開催したり、SNSで発信したり、小学生向けの自己肯定感を高めるプログラムを実施したりしていることが分かりました。

後者については、Beatという団体が情報をまとめ、インターネット上で発信したり、学校の職員向けのプログラムを実施したりしていることが分かりました。

目的以外に学んだ点、反省点

目的以外に学んだ点としては、英語でのコミュニケーションの面で、文法が正確でなくても話せば伝わるということが挙げられます。渡航前はコミュニケーションがとれるかとても不安でしたが、実際に話してみると、相手の方も理解しようとしてくださって、会話ができたので、自信につながりました。

反省点としては、準備に取り掛かるのが遅く、現地の方とのアポを取ることができなかったことがあります。早い段階から目的を定め、徹底的に調べる日設けるべきだったと思います。

グローバルな視点とは何か

渡航前は、摂食障害のケアの体制で日本にないものを学ぼうと探していましたが、イギリスでの一番大きな気づきは日本にあるものでした。自分の国で当たり前だと思っていたことが大事なものであったと気付けることだと思います。

将来の進路決定へどう影響したか

摂食障害への興味や、今まではなんとなくだったものが、学んでいきたいという強いものになりました。日本でのケアがどうされているのかをより深く学び、携わっていききたいと思います。

後輩へのアドバイス

2年生から海外研修を行うことで、行ける回数も増えますし、その後の学びのモチベーションアップにもつながると思うので、挑戦してみることをおすすめします。

研修支援制度に望むこと

また機会があればほかの国にも行きたいと思ったので、この支援制度を続けていただきたいと思います。